

たのしみな日 シミ書房

コットンは、きれいな白い犬です。今日もパリティした服をきて、ともだちの黄色い猫のサフランの家へあそびにいきました。

コンコン。

コットンが戸をたたくと、サフランが戸口から顔を出しました。

「あれ？ コットン、どうしたの？」

「あそびにきたんだよ。今日はあそぶ約束の日でしょう？」

コットンが言うと、サフランは首をひねりました。
「今日だった？ 今日だっけ？ あしたじゃない？」

「今日だよ、ぼく楽しみにしてたんだから！」
そう言って、家に入ったコットンはおどろきました。

家のなかはどこもかしこも、ものだらけ。いろ



んに、サフランが言いました。

「コットンとあそぶとき、いっしょによむ本をさがしたけど、見つからなかった」

コットンのかばんから本をとりだして言いました。

「さがしていた本は、これかな？」

「そう、この本だよ！ コットンがもっていたんだね」と、サフランはよろこびました。

「この本はね、サフランがぼくにかしてくれたんだよ」と、コットンがまじめな顔をして言うと、

「そうだった？ わたしって、なんでもわすれちゃうなあ」とサフランは笑いました。

ふたりは夕方までのしくあそび、さいごに家の中をかたづけました。きれいなコットンのおかげで、サフランの家はピカピカになりました。

コットンは床に落ちていたカレンダーを見つけて、壁にかけました。そして、カレンダーに、大きなまるいしるしを見つけました。まるの下に「こつとんとあそぶ」と書



んなものがちらかつて、足のふみ場もないありさまです。

鏡の前には服が

いっぱい。ぼうしも、くつも、マフラーも、

目をまるくした

コットンに、サフランが言いました。

「コットンとあそぶとき、おしやれをし

たくてなやんじやつた」

台所は洗いで

いっぱい。おなべに、ボールにはかりに、たまごのからももつと目をまるくしたコットンに、サフランが言いました。

「コットンとあそぶとき、クッキーを作ろうとおもって練習中！」

本棚のまわりは本がいっぱい。つみあげたり、かさなったり、ひらいていたり。ますます目をまるくしたコット



いてあります。まるがついているのは、あしたの日付でした。

コットンはおもいして言いました。

「サフラン、ぼく、約束の日をまちがえたんだね。約束はあしただったよ」

「ほんとだ！ でも、今日までのしくあそべてよかった！」とサフラン。

「ぼくたちって、なんでもわすれちゃうなあ」と、コットンがいうと、ふたりはおかしくなって笑いました。

帰りぎわ「さようなら！」と、コットンが手をふると、

「またあした！」と、サフランも手をふりました。

「あした？」コットンがふりかえると、サフランは言いました。

「わたしたち、あしたもまたあそべるね！ だつてあしたは約束の日だよ。カレンダーに書いているもん」

「うん、ぼく、今日とあしたをまちがってよかったなあ！」ふたりはうれしくなって、また笑いました。

「あしたもたのしみ！」と、サフランはまた手をふりました。

「うん、あしたもたのしみ！」と、コットンもまた手をふりかえました。

(おしまい)